

2017年度 自己点検・評価委員会 活動記録

5月

前年度末に提出した答申の内容を踏まえ、小口学長が「2018年問題にどのように対処すべきか」という題目で教職員と会合「学長と語る会」が開かれた。3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）の重要性にかんがみ、教育の質向上について意見交換を行い、学習成果の「可視化」、「成績評価の基準の明確化と統一化」が重要であるとの学長の意見が出た。具体的には、ゼミレポート、卒業論文の質を高めることなどが提案された。また、「国際化」と「情報化」を江戸川大学の2本柱にすることが確認された。

6月

江戸川大学の学生数当たりの事務職員数が他の私立大学と比較して半数以下であることから、職員、特に文部科学省が求めている「専門性の高い職員」の増員を学長、経営会議に自己点検・評価委員会として提出した。

例えば、学生サービスに関しては、授業の合間や昼休み時間などは、教務課や学生課が学生と教員で慢性的に混雑しており、職員による学生・教員への迅速な対応が出来ない状態が続いている。

11月

5月に続き「学長と語る会」が開かれ、「国際化・情報化の浸透」のため、具体的な数値目標が示された（TOEIC 600点台、及びITパスポート取得の推進）。

12月

2016年の答申に示された改革・改善が必要な項目に対し、学部長、教務部長、学生部長、学科長、基礎教養・教育センター長に進捗状況について回答してもらった。結果を自己点検・評価委員会にてチェックを行い、今後の委員会の対応について議論を行った。

3月

卒業生アンケートの実施